



トピックス “無収水目標値、持ち越しへ”



第4回 JCC において、無収水の現状と残された課題を報告する岸本チーフアドバイザー（手前左）。無収水削減目標値の設定は、次回JCC（2018年1月下旬予定）まで持ち越しとなりました。

「沖縄連携によるサモア水道公社維持管理能力強化プロジェクト」

サモアの水道事業は、サモア水道公社（SWA）により運営されており、全人口の約85%にあたる約16万人が給水サービスを受けています。水源は比較的豊富に存在するサモアですが、高い無収水率（60%以上）や雨季の濁水処理対応、水道料金徴収体制の未確立など、SWAは様々な課題を抱えています。これまで、沖縄県宮古島市による草の根技術協力事業「サモア水道事業運営（宮古島モデル）支援協力」や、沖縄県企業局が実施する課題別研修「大洋州島嶼における水資源管理・水道事業運営」への参加を通じ、SWA職員は基本的な漏水対策技術の習得と適切な浄水処理法の理解など一定の成果を得ることができましたが、SWA組織全体への知識・技術の普及は十分とは言えません。本プロジェクトでは、引き続き、沖縄県内の水道事業者による協力のもと、給水人口が最も多いアラオア給水区（約1.8万人）を対象に、適切な水圧管理や管路施工・漏水修理、漏水探知等による無収水対策、並びに水質管理体制の整備支援と浄水場の維持管理強化による水質の改善を図ります。また、各活動における内部研修を充実・強化し、SWA組織全体への技術浸透も図っていきます。

（1）無収水率の不安定な動き

2017年7月11日（火）に開催された第4回合同調整委員会（JCC=Joint Coordinating Committee）では、SWAカウンターパート職員とCEPSOプロジェクトチームより、昨年12月のプロジェクト中間レビューでまとめられた14の提言事項のフォローアップ状況や、過去半年間の活動進捗および懸案事項に関する報告が行われました。



SWAマネージャー陣それぞれの表情

今回のJCC最大の議題であった無収水削減目標値の設定については、SWA側より目標値40%の提案がありましたが、プロジェクトチームは「根拠となる資料やデータが不十分」「過去1年間の無収水率の上下幅に最大で18%の開きがある」「無償資金協力プロジェクトで昨年整備されたばかりのDMA12（ヴァイヴァセ・ウタ地区）の無収水率が今年5月の時点で54%となっている」など、まだまだ未解明な部分が多いことについて触れ、「もうしばらく無収水率の動きを監視し、目標値の算定に必要なデータを安定的に取得できるようになってから



商業的損失対策の取組みを報告する経理課請求班18職員（右）

アラオア給水区無収水率の動き（直近6カ月）

年月	生産量 (m ³)	消費量 (m ³)	無収水 (%)
2016年12月	438,842	201,546	54
2017年 1月	422,829	183,028	57
2月	349,070	178,839	49
3月	457,933	245,064	46
4月	459,927	207,088	55
5月	476,743	244,324	49

の目標値設定が望ましい」ことを提言しました。ジェイミー-SWA総裁もこれに納得し、今回の目標値設定は延期することで合意しましたが、「目標値を掲げて業務に臨むことが職員のモチベーションアップにもつながることから、SWAとしての暫定目標は40%と変えず、次回JCCまでの達成を目指す」と出席したSWA職員全員に呼びかけました。

特集

- ・ トピックス（第4回 JCC）
- ・ 最新情報（人・イベント）
- ・ コラム

※前号（Vol.12）で報告した無収水率は、その後データの訂正があり、上記値に更新されました。

※DMA12（ヴァイヴァセ・ウタ地区）は含まれていません。

第4回JCCでの主な協議・合意内容（発言者）	補足等
プロジェクトで作成された標準作業手順書（SOP）はSWA内部承認手続きが完了（岸本チーフアドバイザー）。	SOPは、必要に応じて、改訂を行っていく。
EU予算サポートプログラムを活用した管路更新は、アラオア給水区を優先的に行っている（ジェイミー総裁）。	DMA3 “Faatoia” 地区の一部管路更新実施。
洗砂作業強化用に大サイズスクリーンを製作し、作業効率と洗浄砂の質が向上。洗砂機の投入は不要（マーク職員）。	プロジェクトによるベルトコンベヤーの調達は進めていく。
アラオア浄水場運転管理記録チェックシートが作成され、オペレーターによる記録が開始。現在、グラフ表示による運転管理状況の視覚化を図るための準備中（マーク職員、桑江JICAボランティア）。	7月分よりデータ分析はマーク職員が行う。
年間を通して無収水値が安定していない現時点での最終目標値設定は困難。乾季の数カ月でベースラインとなるデータを取得分析の上、次回JCCに設定（岸本チーフ、中島JICA職員）。	次回JCC（2018年1月）までのSWA暫定目標値を40%とする。
現在再利用している過砂の不足が見込まれることから、新規調達を年内実施（ファウムイ課長）。	申請手続きに時間を要するが進めていく。
今年度の本邦研修は「浄水場における水質管理強化」を中心に11月下旬実施予定（富山調整員）。	人選、研修内容等の詳細は今後詰めていく。
桑江ボランティア（天然資源環境省配属）によるアラオア浄水場運転管理支援実績を踏まえ、SWAからのJICAボランティア要請について検討依頼（富山調整員）。	ジェイミー総裁の内諾済。今後JICAサモアボランティア担当者と打合わせを持つ。

CEPSO プロジェクト概要

(Capacity Enhancement Project for Samoa Water Authority in cooperation with Okinawa)

【実施期間】

2014年8月14日～2019年8月13日

【プロジェクト対象地区】

アラオア給水区（約2,500世帯1.8万人）

【プロジェクト目標】

アラオア給水区に安全な水が安定的に供給される

【成果】

1. 管路施工・漏水修理能力強化
2. 配水管理能力強化
3. 漏水探知能力強化
4. 水質管理体制強化
5. 浄水場運転改善能力強化

【実施体制】

日本側／沖縄県内水道事業者及び関係機関

サモア側／サモア水道公社（SWA）

【長期派遣専門家】

チーフアドバイザー1名

プロジェクト調整員1名

【短期派遣専門家】

各分野の専門性を有する沖縄県内の水道事業者及び関係機関からの派遣

今後の活動計画

【専門家派遣】

管路施工（2017年7～8月）

漏水調査（2017年8～9月）

資産管理（2017年9～10月）

配水管理（2017年10～11月）

無収水削減（2017年10～12月）

水質管理（2018年1～2月頃）

浄水場運転管理（2018年2～3月頃）

生物浄化法（2018年2～3月頃）

※プロジェクトの進捗、SWA側の受入スケジュールにより、派遣時期の調整があります

【第4回カウンターパート研修】

日程：2017年11月下旬（2週間）

テーマ：水質管理＋浄水場運転管理

【供与機材】

機材／水中ポンプ、漏水探知機器ほか
納品／2017年8～9月（予定）

機材／水質測定機器（濁度、残塩）

納品／2017年8月

(2) 業務知識テストの実施



土曜日に行われたテストには約60名の職員が参加しました

2017年6月24日（土）、SWA施設維持管理を担当する市街課と地方課の全職員を対象としたペーパーテストが行われました。同テストはジェイミー総裁の主導により実施されたSWA初の試み。2つの試験問題「給水システム」「浄水場運転管理」を作成したのはサヴァイ島維持管理課のイラサ課長で、その内容はCEPSOを通じて作成された標準作業手順書（SOP）や短期専門家による講義資料も活用されたものとなっています。「以前からこのテストを計画していて、各職員がどのレベルにあるのかを把握しておきたかった」と語るジェイミー総裁は、テストの集計結果がまとまるや否や、市街課オフィスに赴き、職員を集めて各問題の答え合わせと解説を行いました。その後、市街課オフィス内には市街課職員の点数一覧表が張り出され、各職員は身の引き締まる思いを感じていました。「今年11月頃に『実技試験』も計画しています」と、ジェイミー総裁は既に次を見据えていました。今回のテスト結果、市街課トップ3はマーク、ラモサ、ジェロームでした。



緊張した面持ちのマタイオ職員（左）とジェイミー総裁（右手前）

(3) 無収水対策エンジニア マシュー職員 辞職



プロジェクト開始から無収水削減に向けCEPSO専門家チームと協働し、そして部下のレベルアップや関係部署との連携促進を常にリードしてきた市街課無収水対策班エンジニアのマシューが今年7月、SWAを辞職しました。「家族の将来を第一に考え、悩みに悩んだうえでの決断」と心境を語ったマシューは、新天地となる Land Transport Authority（LTA／陸運局）で計画部署のマネージャーポストに就任し、今後はサモア国の道路交通網のインフラ整備・開発を担っていきます。頑張れ、マシュー！！

最新情報 (人・イベント)

(1) 名護市管工事業協同組合 比嘉 慶太さん “言葉の壁を越えたチームプレイ”、名護市環境水道部 照屋 晃さん “名護の風”



比嘉さん(左)、照屋さん(右)

2017年7月17日から5週間、名護市管工事業協同組合の比嘉慶太(ひが・けいた)さんと名護市環境水道部の照屋晃(てるや・あきら)さんが管路施工・漏水修理指導のため活動中です。主な業務内容は、管接合、漏水修繕の技術指導、そしてSWA職員の能力評価と内部研修の提案・実践です。「サモアへの派遣が決まり、どうい

国民性・地形・気候なのかに興味を湧きました。また、自分自身ラグビーをしている事もあり、ラグビー国サモアが身近に感じ、とても親しみを覚えました。実際にサモアに来て、おらかて明るい性格の人が沢山居るとい印象です。SWAチームと連携を取り、言葉の壁を越えたチームプレイを目指したいと思います」と比嘉さん。一方、照屋さんは、「異国の地で不安もありましたが、チーフアドバイザーの岸本さんと心強い相棒の比嘉さんとともに“チーム名護”を結成し、CEPSOに名護の風を吹かせたいと思います。初日からSWAの皆さんも私達を快く受け入れてくれ、居心地の良さを感じています。約1か月間、より多くの技術指導が行えるよう頑張ります」と、それぞれの意気込みを語ってくれました。お二人の活動の様子は次号お伝えします。

(2) 南部水道企業団 謝花 朝規さん “サモアに合った調査方法”



南部水道企業団の謝花朝規(じゃはな・ともり)さんが、2017年8月15日から5週間、漏水探知指導のためサモアへ派遣されます。謝花さんは2015年に同僚の具志堅(ぐしけん) 専門家の活動に同行し、現地の漏水事情に精通する頼もしい存在。カウンターパートからも“リ”の愛称で親しまれていました。「約2年ぶりの派遣となります。今回は、一人で派遣なので多少の不安はありますが、漏水を発見し、無収水の削減を目指します、またSWA職員の皆様と一緒にサモアに合った漏水調査方法を考えていきたいと思

います」と語る謝花さんの活躍も次号をお届けします。

(3) 前チーフアドバイザー 高良 求さん “サモア電撃復帰”



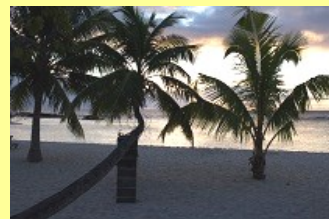
プロジェクト開始から昨年(2016)12月までチーフアドバイザーを務めた高良求(たから・もとむ)さんが、現在の国内支援委員としての立場から、プロジェクト全体の実施・運営状況に係る助言および短期専門家の活動支援を目的に、2017年8月15日から約3か月間サモア復帰します。「懐かしのサモアへ再び行けることになり、かなり興奮しています。SWA最大の課題は言うまでもなく無収水率の高さ。プロジェクト開始後も、なかなか思うように無収水率を下げる事ができていませんでしたが、ここに来てようやく全12DMAの無収水率がまがりなりにも捉えられようになったとの報を受け喜んでます。今後、各DMA無収水の要因が次第に明らかになっていくものと思われ、個々の無収水対策が目に見える形で反映されていくでしょう。CEPSOに復帰することになり、SWAの各課題に皆さんとともに取り組んでいくことになり、特に無収水改善に道筋をつけることができればと思っています。SWAカウンターパートの懐かしい面々と会えること、とても楽しみにしています」と高良さん。Welcome home, タッカーラ!

(4) プロジェクト調整員 田中 祥子さん “にこやかに、おらかに”



富山(とみやま)調整員の任期満了(2017年8月)に伴い、新調整員の田中祥子(たなか・さちこ)さんがCEPSOプロジェクトチームに加わりました。これまでバングラデシュでの村落開発プロジェクトやJICA九州で研修監理業務などを担当してきた国際協力経験が豊富な田中さん。「タロファ! 夢の島サモアに到着し浮かれたのも一瞬。サモア側関係者も多く、名前を覚えるだけでも時間がかりそう、顔も引きつっています(写真のとおり!)。にこやかに、おらかに、そして敏速な対応を心して頑張りますので、どうぞよろしくお願いたします」と田中さんは今後の抱負を語ってくれました。田中さんの任期はプロジェクトが終了する2019年8月までを予定しています。

サモア'sTyLe



日本と比べたら、人の温かさや自然が豊富に残っているサモア。そんなサモアの中でもさらにゆったりとした時間が流れているのが、サバイ島。

「サバイを知らない者は、サモアに来たとは言えない」というフレーズがある(?)ように、美しい海にマッチしたヤシの木とファレ、子供たちの笑顔、我がもの顔で道を横断する家畜、観光名所の“ボアホール”など、首都アピアのあるウボル島とはまた違った景色や人間味を感じることができます。



「サバイんかい、めんそーりよー」

(青年海外協力隊・水質調査/桑江 淳)

Gagana



【サモア語講座】“グレタに習え”

#8 “Malie, malie”

発音：マーリエ x 2

意味：well-done



グレタ

「歌や踊りの中でよく使われる言葉よ。聴衆からの“賛意”、“感謝”、“満足”を表すハヤシトバといったところかしら。沖縄には“スイッ、スイッ”というかけ声があるそうね」

☆サモア回想記☆



上嶋 円香

元青年海外協力隊（サモア・美術）
& CEPISOロゴクリエイター

8年ぶりにやってきましたサモア。

エメラルドグリーンの海、生き生きとした木々、ブルメリアの優しい香り、それだけで幸せ気分にトリップできてしまいます。すれ違うサモア人の笑顔にも、なつかしさを覚えて「ホッ」とします。そんな中、当時の配属先とお世話になったサモアンファミリーを突撃！訪問してきました。

配属先は“Beautiful Expressions of Nature, Fine Arts Academy, Studio & Gallery”、“BEN”と呼ばれる職業訓練美術学校です。元カウンターパートの校長先生との驚きと感動の再会に、アートのこと、人生について、愛について、と積み積もった話が止まらない！あつという間に6時間も経っていました。学校は、土の床とトタンの壁に、ダイナミックな作品がどど〜と並び、あるJICAシニアボランティアに言わせると「お化け屋敷」、私にとっては毎日がキャンプのような、秘密基地のような場所でした。私が活動していた当時は Lelata (=DMA4?) にありましたが、現在はそこから移転してSWA事務所の近く (Vaitele) にあるので、サモアに行かれる皆さんもぜひ遊びに行ってみてくださいね。



ベネフロ（校長先生）の“夢”への挑戦は今も続いています



ファミリーは、当時一緒に撮った写真を今でも大事に飾っていました

そして、いくつかのサモアンファミリーのお家を訪ねては、「泊まっていったらいい」と声をかけていただき、たまメルボルンから帰国していたサモアンフレンドと腕を組んでマーケットを歩き、ちょこつとなつかしい気分になりました。そんな中、時の流れを感じるの、子供たちの成長ぶりですね！

10年前、20代の乙女(?)だった私は、初めての海外生活に、初めは少しだけ気をはっていたかもしれませんが、でもね、壁のない家に暮らすサモア人は、心にも壁がなく、彼らとつき合う2年間で思ったこと。それは、世界の平和って、自分や家族、友人を大切にすることでいいんだなあ、そして自分が平和でいることなんだなあということを感じたように思います。

ここで、みなさんに質問です。“Manaia Yapani?”（日本はナイスですか？）

初めて会うサモア人は、“Manaia Samoa?” と必ず聞いてきます。サモア人ってサモアのこと大好きですよ〜。私も大好きやけど。笑 “SAMOA” と大きく書かれたラバラバを着ている姿からも大好き度が表れていると思うんです。大家族で暮らし、幸せそうに見えるけど、両親が離婚して海外にいて、おじいおばあや親戚に育てられている子や養子となっている子もたくさんいる。それでも、“Manaia”なのは、全てを受け入れて、許しているからなのか〜と、思ったりします。心の平和は外の環境にあるんじゃないくて、自分の中にあるからね。平和っていうのは今の自分に満足していることでもあるかもね。



大家族に包まれるような大きな木



波の音、星の空、ナムアの色

無人島・ナムア島で波の音を聴きながら、砂浜でごろり。天の川を眺める贅沢な時間。全てに感謝を伝えて、たっぷり味わってきました。

滞在中、特に、TOMMY & JUN にはとてもお世話になりました。お付き合いいただいたみなさまも、どうもありがとうございました♡

【参考】上嶋さんの情報については、[Le Suavai vol.6 \(Page 3\)](#) にてご覧いただけます。

沖縄県立世富祖高等学校※

【2017年度大会登録メンバー】 ※2017年8月10日現在

監督 岸本
マネージャー 田中

先発 比嘉、照屋（名護市）
中継ぎ 謝花（南水）、田場（那覇市）、川上（沖縄市）
抑え 伊佐（沖縄県企業局）、中本（[CWSC](#)）
★助っ人 高良（前監督）、準備中（無収水削減専門家）



【学校関係者】

校長 田村（JICA本部）
生徒会長 中島（ " ）
番長 前川（JICA沖縄）
その弟分 桑江、富山
マドンナ 上嶋
PTA 国内支援委員会、沖縄県・県内水道事業体および関係機関、沖縄サモア会（仮称）

【対戦校および日程】

初戦 管路施工業（2017年7~8月）
2回戦 漏調学院（2017年8~9月）
3回戦 GIS高専（2017年9~10月）
準々決勝 無収水商業（2017年10~12月）
準決勝 水質工科（2018年1~2月）
決勝 濁水産（2018年2~3月）



世富祖 2017、初戦奮闘中！

【大会展望】

初戦：今大会より初参戦の名護市。ズバ抜けた現地適応能力を有する比嘉と知的な配管戦術を誇る照屋の名護コンビが2017年「世富祖旋風」の幕開けを飾る。基本プレイの定着がカギ。
2回戦：2年ぶりの復帰となる南水の大魔神・謝花。この2年間、現地からの情報は常に手元に届いており準備万端。昨年12月まで監督を務めた高良の現場復帰も心強い。成長したチームメートのジュリアス、ラサロ、アモーネの漏水調査班による援護射撃も見どころ。
3回戦：システム統合を目指すGIS高専に対し、那覇市は、過去2年、大濱「ナット・オバマ」が進めてきたデータ蓄積・情報整理、配管図面作成支援を引き継ぐ田場（創）の投入を準備中。今年4月、大濱とバッテリーを組んできたトゥウニが突然の「転校」をしたものの、「神スイング」ならぬ「過美ウイック」で資産管理班を牽引するキャプテン・ジョリベッティがチームをまとめ上げる。
準々決勝：平均無収水率50~60%を誇る無収水商業の重量打線に対し、過去3年マウンドを守ってきた田場（努）、上原、仲宗根の3本柱を温存し、天然を極めた「打撃の神様」川上を4番に抜擢する沖縄市と、今大会より初導入された「助っ人枠」無収水削減専門家が挑む今大会屈指の好カード。マシューの戦線離脱を得意のチームプレイでカバーできるか。
準決勝：垣花、福原と毎年安定した実績とクオリティを誇る沖縄県企業局（水質管理事務所）。特に、今年2月の福原の活躍は記憶に新しい。11月下旬にはカウンターパート研修の受入を予定し、年明け2018年には、抑えのエース伊佐が遂にサモアデビューする。
決勝：ミスターEPS中本の「エコロジカル・ストレート」は今年も健在。それでも、雨季12~4月にその強さを発揮する古豪・濁水産の「高濁度」は、一旦流れに乗せると手の施しようがない。また、3年前にドラフト1位指名を受けた桑江が中継ぎとしてアラオア球水場を盛り上げるものの、10月より古巣・沖縄県企業局への復帰が決まっている。南（ばい）ぬ島・石垣、竹富からの救世主「カムリワシ」の飛来と「育成枠」を活用した留学生派遣による総力戦で、悲願の「打倒 濁水産」を目指す。

（文・写真／富山 健太）

次号掲載予定

- ・プロジェクト活動進捗
- ・専門家活動報告
- ・PWWAカンファレンス
- ・コラム

お問い合わせ先

本プロジェクトに関するご意見、ご質問、ご感想等がありましたら、以下のメールアドレスまで送付ください。

CEPSOプロジェクトデスク
SWA本部(TATTE Building)
& ヴァイテレ事務所内
アピア、サモア

連絡先：

✉ : cepsopj@gmail.com
☎ : (+685) 770.2440

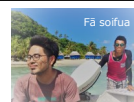
担当：田中（プロジェクト調整員）

※この物語は、今年度のプロジェクト活動の展望を現在開催中の高校野球・夏の甲子園に見立てて描いたものです。

【登録メンバー】プロジェクト専門家
【学校関係者】JICA案件担当部署ほかプロジェクトを支援する関係機関と関係者
【対戦校・日程】各専門家の活動分野をもじった架空の校名と予定されている派遣日程
【大会展望】3年間プロジェクトを間近で見てきた私の個人的な展望論（期待など）

Newsletter

【編集後記】といった感じで、ちょっとした遊び心も持って始めたニュースレター「Le Suavai」も気が付けば今作で第13号を迎えることができました。何をやっても長続きしない自分がここまで続けられたのも、ひとえにCEPSOに関わっている皆さまからのご支援とご協力によるものと深く感謝しております。3年間、お水の世界のことをたくさん勉強させてもらいました。本当にありがとうございました。チバリヨ〜世富祖（CEPSO）、今年も島って行こう！（2017.8.10）



Fā soifua
LE SUAVAI